

機関番号：34517

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520145

研究課題名（和文）生活財としての食玩に関する表象文化的研究

研究課題名（英文）Analysis of the representative function of *shokugan*
(collectable miniatures)

研究代表者

森田 雅子 (MORITA MASAKO)

武庫川女子大学・生活環境学部・教授

研究者番号：40249503

研究成果の概要（和文）：

国内およびイタリア・アメリカはじめ海外5カ国のフィールドワークを実施し、文献調査やネットアンケート、インタビュー（フィギュア製造業の海洋堂、コレクター）・モニタリング・データベース化の手法を用いた。巡礼地での観光土産との類縁性に着目し、「西洋型先進国」における食玩および食玩の類縁生活財（ミニチュア）の流行の仕組みや象徴的・表象文化的機能と日本的特異性の比較・解明を試み、得た知見の概要を『報告書：研究経緯および資料』に公開した。

研究成果の概要（英文）：

For this research on *shokugan* (toy collectables), which are mostly miniatures and replicas, meticulous attention has been paid to prior research on related topics. Fieldwork in Rome, Italy and Spokane, Washington State (U.S.A.) as well as four European countries and collaboration with Italian researchers and informants, has contributed to achieve a cross-cultural comparison of the role of miniatures and replicas in “Western” societies, and foregrounding Japanese idiosyncracies.

Questionnaire surveys, using paper media and fill-in forms as well as intranet and internet sites, as well as intensive interviews, and monitorings were carried out and the results analysed.

We are able to propose an explanation for the mechanism of the representative and symbolic functions the household article and miniature *shokugan* affords; and have published the outcomes in *Houkokusho: Kenkyu-keii oyobi shiryō* (Report on *Shokugan*: Procedure and Data) 2010.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：表象文化論

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：食玩・生活財・表象・象徴的機能・美学・芸術諸学・文化人類学・生活財

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

(1) 食玩は「食品玩具」を表わす業界用語が語源で、2000年頃からコンビニが主な流通拠点を提供した。

(2) 食玩ブームは2005年を境に終焉へむかった。

(3) オタク・アニメ等いわゆるサブカルチャーとの関連性が推測される。

2. 研究の目的

(1) ブームの諸要因探究

(2) 生活財としての象徴的機能分析

(3) ミニチュア等類似生活財にまつわる生活行動分析

(4) アニミズム的要素の抽出

(5) 図像消費の構造解明

(6) サブカルチャー的関連性模索

3. 研究の方法

(1) 文献調査：関連分野網羅をめざす。

(2) 国内・海外5カ国フィールドワーク

(3) サンプル収集・データベース化

(4) 各分野関係者との研究討議

①海洋堂創始者 取締役(宮脇修一氏)、
取締役館長(宮脇修氏)

②創始期食玩マーケティング関係者
田中隆博氏他(「ペンギンズランチ」など)

③異文化間比較—サブカルチャー・図
像消費・生活財移動—
ローマ・サピエンザ大学専任講師 ダ
ニエラ・サドゥン氏(武庫川女子大学生
活美学研究所 平成22年度嘱託研究員)と
3回の研究討議実施(平成23年3月8—
26日 来学)

(5) 3種留め置きアンケート・2種ネット
アンケートの実施・分析(統計学的解析含む)

(6) 食玩にまつわる生活行動調査—インテ
ンシブインタビュー・モニタリングの実
施・分析(第9回食博覧会3号館の食玩展

示実施)

(7) 関連研究会、報告会、講演会の実施

4. 研究成果

(1) グロバリゼーションの渦中にある「民
族性」(日本的-「オタク」的表象文化にっ
ての知見を得た。

(2) 図像の消費 味覚・感覚領域の消費流
行の仕組みに関する知見を得た。

(3) ミニチュアの象徴的機能の構造分析
を行ない、知見を得た。モノは図像のアニ
ミズム的要素を介して象徴的機能を行使
する。ミニチュアは実物の象徴性を濃縮す
る役割がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文](計5件)

①2009.3 横川公子, 森田雅子, 延藤久美子,
坂井加奈, 徳山孝子, 「食玩に関する生活
文化学的研究Ⅱ—生活財としての食玩の表
象文化的研究—」, 『武庫川女子大学紀要 人
文・社会科学編』 第56巻, p.127-146. 査
読有。

②2010.3 矢田部愛, 横川公子, 食玩に関する
生活文化学的研究Ⅲ—マスメディアに現れ
た食玩—, 『武庫川女子大学紀要 人文・社
会科学編』, 第57巻 pp.53-64. 査読有。

③2010.3 森田雅子 「食玩に関する生活文化
学的研究Ⅳ—生活財としての食玩の表象文
化的研究— 贈答にまつわる図像の渡り」
『武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編』,
第57巻, pp147-54. 査読有。

④2010.11 岡田由紀子, 「中高年女性ファン
と食玩について—ペ・ヨンジュンが収集の楽
しみを与えた七色亜茶の事例から—」,
『武庫川女子大学生生活美学研究所紀要』, 第
20巻, 129-141頁. 査読有。

⑤2011.3 横川公子 「食玩における余剰の価
値—食玩の意味の多様性—」 『道具学論集』,
16号, p. 31-45. 査読有。

〔学会発表〕（計 5 件）

①**2009.1.11** 延藤久美子, 森田雅子, 横川公子, 北村薫子他 4 名, 「食玩の所持と意識—アンケート調査から」2008 年度道具学会研究発表フォーラム, 11 頁. 東京おもちゃ美術館.

②**2009.1.11** 横川公子, 「食玩の余剰な効用」, 『2008 年度道具学会 研究フォーラム「道具学フォーラムの原点に還る」口頭発表梗概集』, 道具学会, pp. 25-26. 東京おもちゃ美術館.

③**2009.8.31** 森田雅子, 「生活財としての食玩の表象文化的研究」日本家政学会第 61 回大会. 武庫川女子大学.

④**2010.1.9** 西田徹, 横川公子, 「地域デザインと食玩」, 『道具学会研究発表フォーラム「道具学の構築に向けて」口頭発表梗概集』13 巻, 3-5. 宝塚造形芸術大学.

⑤**2010.5.3** 森田雅子, イースタン・ワシントン大学 日下・フォッシーン国際交換特別教授 公開講座 “Snapshots of Popular Japanese Imagery (日本の大衆文化の図像)”

〔図書〕（計 2 件）

①**2010.3** 武庫川女子大学 生活美学研究所・生活デザイン小研究会（横川公子代表）共編著 『生活デザイン研究』（第一部：食玩研究特集）, 4-34 頁.

②**2011.3** 森田雅子 編纂 『報告書:研究経緯および資料 平成 20-22 年度科学研究補助金【基盤研究 (C)】「生活財としての食玩に関する表象文化的研究」(課題番号 20520145)』, 生活環境学科内食玩研究会, 報告 8 件, 資料 4 件掲載, 169 頁.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

○ホームページ等

①**2008.2** 講演会実施(創始期食玩) 公開研究会「海洋堂をめぐるそれぞれの立場から」海洋堂代表取締役 宮脇修一氏 「海洋堂が食玩で目指したもの」田中隆博氏「海洋堂食玩によって、唯一のポジションを得た製菓会社」他

②**2009.6—2010.3** 学内ウェブサイト・インターネットアンケート実施
/SCRIPT/mamoru-2009629144334/scripts/serve_home

③**2010.5** 「生活環境学科内食玩研究チームジュニア」(研究補助業務の学生モニター6名) 平成 21 年第 9 回食博覧会会場 3 号館武庫川女子大学ブースに食玩展示実施(推定来場者六千名)

④**2010.7—2013.5** 学外ウェブサイト・ネットアンケート実施
<https://www.dignet.jp/mukogawa-u/~kankyo/enq/>

⑤**2011.3** 講演会実施(図像消費・生活財移動) ローマ・サビエンザ大学専任講師 ダニエラ・サドゥン氏(武庫川女子大学生活美学研究所 平成 22 年度嘱託研究員) “*Banko wonderland. Creatività e fantasia nella ceramica Banko* (不思議の国の萬古焼き —輸出用陶磁器の独創性とファンタジー—)』

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森田雅子 (MORITA MASAKO)
武庫川女子大学 生活環境学部 教授
研究者番号: 40249503
備考: 武庫川女子大学生活美学研究所長(兼任)

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

(2)研究分担者 5名

横川公子(YOKOKAWA KIMIKO)

武庫川女子大学 生活環境学部 教授

研究者番号：50090923

備考：武庫川女子大学生活美学研究所員（兼任）

矢田部愛 (YATABE AI)

武庫川女子大学 生活美学研究所 助手

研究者番号：30454747

北村薫子(KITAMURA SHIGEKO)

武庫川女子大学 生活環境学部 講師

研究者番号：30319855

延藤久美子(ENDO KUMIKO)

武庫川女子大学 武庫川女子大学短期大学

部・生活造形学科助手

研究者番号：50441225

岡田由紀子(OKADA YUKIKO)

武庫川女子大学 情報教育研究センター 助手

研究者番号：10330440

(3)連携研究者 0名

()

研究者番号：

(4)研究協力者 5名

徳山孝子

(神戸樟蔭女学院大学 人間科学部 准教授)

西田徹

(武庫川女子大学 生活環境学部 准教授)

坂井加奈

(武庫川女子大学 生活環境学部 副手)

櫻谷かおり

(元武庫川女子大学 生活環境学部 助手)

天野敏彦

(元武庫川女子大学 生活環境学部 教授)

武藤恵美

(武庫川女子大学 生活美学研究所 非常勤助手)